

# 社会言語的能力育成のための英語教育

## —社会的違いへの気づきの促進—

宮 坂 麻 友

本研究発表では、英語学習者の社会言語的能力 (sociolinguistic competence) を育成するために、映画を利用した英語の発音指導法の可能性を示した。Canale と Swain (1980) はコミュニケーション能力の要素の1つとして、社会言語的能力を「社会的な文脈を判断して状況に応じて適切な表現を行う能力」としているが、本発表では、社会状況に応じた発音の違いに注目した。学習者が、発音の違いがコミュニケーションにどのような影響を及ぼすかを実感できるように、限りなく現実に近い英語の「言語使用の場」を作り出すためには、映画を教材として使うことが効果的であると考えた。特に、映像と音声が揃っている映画は発音の教材として最適である。学習者が発音の違いに「気づき (noticing)」、社会と発音がどのように関わっているかを学ぶことこそ、社会言語的能力に繋がるものと、発音の指導方法を提示した。

教材として選択したのは、イギリスの階級社会と発音の違いの関連性を描いた映画『マイ・フェア・レディ』である。この映画では、非標準発音のコックニー訛りの英語を話す主人公（下町育ちの花売り娘）が上流階級の発音の猛特訓を受け、標準発音 (RP) を習得していく過程が描かれている。主人公は社会的に低い階級に属しており、[ei] を [ai] と発音するため、矯正用の「スペインの雨」the Rain in Spain を「ザ・ライン・イン・スパイン」という非標準発音でしか発音できない。しかし、主人公は、ヒギンズ博士の特訓により上流社会の発音を習得するというサクセスストーリーである。学習者は、まず、この映画を通して、当時のイギリス社会ではいかに標準発音が上流階級で評価されているか、また、階級と発音がいかに密接な関係があるかについて、学習者の「気づき (noticing)」を喚起していくことができる。

本発表では、『マイ・フェア・レディ』を使用して社会言語的能力を育成するために、次の4段階の指導方法を示した。

(1) 非標準発音を知る。(発音矯正以前の発音)

発音と社会的身分の関係性を学習者に学ばせる。

主人公が発音の矯正特訓を受ける前の非標準発音の特徴を聴かせ、その発音に対する周囲の反応が描かれている場面を視聴させる。主人公の発音の特徴と社会的身分を確認させる。

(2) 非標準発音と標準発音の違いを知る。(発音矯正の実践)

発音練習のトレーニングを実践する。

主人公が発音の矯正特訓を受けている場面を視聴させ、学習者自身が映画の中で行われている発音矯正—母音 [ei] や子音 [h] 音—トレーニングを実体験させる。

(3) 標準発音を知る。(発音矯正以後の発音)

標準発音習得時の主人公の発音を聴かせ、その違いを話し合わせる。

英語母語話者の間に多様な発音パターンがあることをどう考えるか、社会的な階級と発音の違いについて気づかせる。

(4) 標準発音に対する周囲の人の変化を知る。

標準発音習得後の主人公や周囲の変化を認識する。

発音の矯正訓練が済んでから、主人公の発音がどう変化したのかを再認識させる。

発音の変化によって、主人公への周囲の人たちの変化はどう変わったかを考える。

以上の段階的な指導手順によって、映画を単に鑑賞するだけではなく、イギリスにおける標準英語とはどのような発音であるかを理解することができ、発音矯正特訓の実践を通して、英語学習への動機づけを確かなものに行うことができる。

結論としては、映画を用いた指導法により、学習者は発音と社会階級の関連性に「気づき」、状況に応じた適切な発音で、コミュニケーションを図る社会言語的能力を高めることができた。